

令和6年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書／事後評価書

団体名	公益財団法人岡山文化芸術創造	
施設名	岡山シンフォニーホール	
内定額	15,321	(千円)

1. 基礎データ

(1) 開館日数・事業本数・貸館日数

項 目		令和5年度	令和6年度
開館日数		262	258
年間事業本数（※1）	主催事業	25	24
	公演事業	12	11
	（内、本助成対象事業本数）	10	9
	人材養成事業	8	8
	（内、本助成対象事業本数）	3	3
	普及啓発事業	4	4
	（内、本助成対象事業本数）	3	3
	その他 内容： 依頼公演	1	1
	ホールごとの貸館日数	908	814
	ホール名： 大ホール 座席数： 2001	197	186
貸館日数	ホール名： イベントホール 座席数： 200（定員）	223	197
	ホール名： 和風ホール 座席数： 100（定員）	124	110
	ホール名： スタジオ1 座席数： 120（定員）	189	166
	ホール名： スタジオ2 座席数： 30（定員）	175	155

※1 事業の延べ実施回数ではなく、事業本数を記入してください。

(2) 施設利用者数・利用率

項 目		令和5年度	令和6年度
施設利用者数（※2）	主催事業入場者・参加者数	25,555	22,765
	公演事業	18,302	16,103
	人材養成事業	4,924	3,849
	普及啓発事業	1,967	2,600
	その他 内容： オーディション・会議等	362	213
	貸館事業入場者・参加者数	166,340	157,287
	その他 内容： 共催等	2,145	1,653
	計	194,040	181,705
施設の利用率(%)		75.2%	72.1%

※2 実演芸術の公演等を鑑賞する者、ワークショップ等に参加する者、その他の劇場・音楽堂等の事業を利用する者の延べ人数を記入してください。劇場・音楽堂等のスタッフや、併設施設（美術館、図書館等）のみへの入場者数は除きます。

(3) 公演事業データ

事業種別		事業本数	公演回数	入場者・参加者数	入場者・参加者率	事業本数内訳						
						演劇	音楽	舞踊	伝統芸能	演芸	総合（※4）	その他
令和5年度	主催公演（※1）	12	12	15,388	71.2%		12					
	共催・提携公演（※2）	2	2	2,075	57.6%		2					
	貸館公演（※3）	110	117	132,439	62.9%		69	8				33
	計	124	131	149,902								
令和6年度	主催公演（※1）	11	13	13,770	62.6%		11					
	共催・提携公演（※2）	1	1	1,625	81.2%		1					
	貸館公演（※3）	106	109	124,300	67.0%	6	72	5				23
	計	118	123	139,695								

※1 名義主催は除きます。

※2 名義共催を含みます。

※3 「貸館公演」における「入場者・参加者数」及び「入場者・参加者率」は概算で構いません。

※4 「総合」には、フェスティバル等における事業数を記入してください。

2. 公演事業の実績記録と自己評価

(1) 各公演事業における 評価項目「創造性・企画性」に関する評価指標・目標(値)

・ 令和6年度助成対象事業のうち公演事業について、助成対象事業ごとに自己評価を記入してください。

事業 番号	事業名	入場者数		入場 者率	評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	備考
公-01	岡山フィルハーモニック管 弦楽団 定期・特別演奏会	目標 値	6,900	70.7%	観客の満足度	アンケートの4段階評価で上位2段階(「大変満足」「満足」)と回答した人が89%以上	92.57%	観客の満足度・リピーター率ともに目標を達成した。 長年、公演内容の充実(曲目の多様化、若手ソリストの招聘)を図ってきた結果、高い満足度を維持している。獲得した観客を逃がさずリピーター率の上昇へと繋げることができており、新規観客の獲得に課題が絞られつつある。	満足度、リピーター率は上々であるが入場者数が大きく低下し入場者率も下落、有料入場者数も減少した。 定期演奏会での低調の原因はどこにあるか真剣な分析が必要であろう。	
		実績 値	5,050	51.7%	当該公演のリピーター率	アンケート回答者のうち75%以上	76.74%			
公-02	ホールフェスティバル「シン フォニーは友達！2024」	目標 値	1,280	83.3%	観客の満足度	アンケートの4段階評価で上位2段階(「大変楽しかった」「楽しかった」)と回答した人が86%以上	79.09%	満足度達成率は91.96%、新規来館数は目標を達成した。客層は就学前児童や小学生(低学年)とその親である。観客の多くがワークショップへの参加を目標に参加しているが、全員が希望するワークショップに参加できる体制が整っていない点が課題といえる。	こちらの有料入場者数は大きく上伸し、新規来場者も増加している。	
		実績 値	1,501	97.7%	新規で来場した観客数	アンケート回答者のうち50%以上	54.50%			
公-03	ベートーヴェン“第九”演奏 会2024	目標 値	1,400	75.6%	観客の満足度	アンケートの4段階評価で上位2段階(「大変満足」「満足」)と回答した人が88%以上	90.80%	観客満足度は目標を達成、新規観客数は91%の達成率であった。マエストロ秋山和慶氏の岡山フィル最後のタレントとなったが、例年以上に高い水準のパフォーマンスであったと出演者・観客ともに評価している。来場客の高齢化が顕著であり、若い客層の獲得が次回の目標といえる。	秋山和慶氏最後の演奏会で、第9でもあり成功した公演。 若い客層の開拓は公-01の今後の施策に関連する事項でもあり、後任指揮者の人選がポイントとなろう。	
		実績 値	1,400	75.6%	新規で来場した観客数	アンケート回答者のうち30%以上	27.59%			
公-04	岡山フィルハーモニック管 弦楽団 第2回津山定期演 奏会	目標 値	600	63.2%	観客の満足度	アンケートの4段階評価で上位2段階(「大変満足」「満足」)と回答した人が93%以上	88.46%	満足度達成率は95.1%、リピーター率は目標を達成した。指揮者の怪我による交代を嘆く声はあったが、津山会場での開催を喜ぶ声が多かった。前年度からのリピーターが想定以上であったが、40代以降の客層に偏っており、子どもや学生・若者の取り込みを目標とした対策が必要である。	岡山としては地方となる津山での第2回定期演奏会。来場者の満足度やリピーター率が目標を上回る。しかしながら入場者数は目標の半分。一般者の関心を高める施策が急務。	
		実績 値	330	34.7%	当該公演のリピーター率	アンケート回答者のうち40%以上	57.14%			
公-05	プレミアムコンサート サイ トウ・キネン・オーケストラ プラス・アンサンブル	目標 値	800	49.3%	観客の満足度	アンケートの4段階評価で上位2段階(「大変満足」「満足」)と回答した人が89%以上	91.49%	満足度は目標を達成、新規来場者達成率数は60.4%、来場者数合計は目標を400人上回った。10代の観客数が全体の33.4%と最も高く、地域の学生に世界レベルの演奏を届ける目標に対し効果を成したといえる。岡山県外からの観客も多く、広域圏中核ホルの地位をいかになく発揮したといえる。	津山と異なり入場者数は目標値を大きく伸ばした。満足度も高い。サイトウキネンのネーミング効果もあるか。	
		実績 値	1,200	74.0%	新規で来場した観客数	アンケート回答者のうち16%以上	9.67%			
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								

3. 自己評価

評価項目①：創造性・企画性

評価の観点							
・(企画力) 地域の状況と芸術性とのバランスが取れた、特色ある事業計画である。 ・(制作力) 優れたアーティストやスタッフ等が才能や技能を発揮し、高い水準の作品制作や各種事業が行われている。 ・(発信力・影響力) 圏域内外の実演芸術を牽引する成果が期待できる。 ・(レジデントカンパニー・アーティスト) 当該劇場を創造拠点又は準拠点とする実演芸術団体やアーティストを擁する。 ・自由設定の観点(任意)							
(1) 令和6年度の自己評価							
・ 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら、事業類型ごとに自己評価を記入してください。							
	評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など	
公演事業	①観客満足度……………	①全公演事業の89%で、観客満足度の目標達成	①大変満足、満足の合計90.7%【目標達成】	① 観客サービスの向上(評価指標:観客満足度) 2024年度は観客満足度において【目標達成】となった。アンケートや現場対応の改善により高い評価を獲得し、会員数の増加にも良い影響を与えたと考えられる。今後継続的な取り組みにより、更なる成果が期待される。 ② 地域文化振興・連携(評価指標:レジデント・カンパニーの活動評価) 岡山フィルハーモニック管弦楽団の活動評価は89.3%で【目標未達成】。山陽新聞では高い評価を得ており、将来の発展に期待が寄せられている。とはいえ、若年層の新規ファン獲得が引き続き課題である。 ③ 会員基盤の拡充(評価指標:岡山シンフォニーホール友の会 会員数) 会員数は目標を達成し、前年を上回る結果となった。観客満足度の向上が直接的に貢献したと考えられ、今後も運営改善や広報強化を通じた継続的な取り組みが有効とされる。 総評 観客満足度と会員数においては目標を達成し、公演事業は概ね良好な成果を取めた。一方、活動評価は未達であり、特に若年層の取り込みが重要課題として残された。	◇レジデントカンパニーとしての岡山フィルハーモニック管弦楽団の新聞記事等での評価は高いようだ。30年の歴史の成果でもある。新聞記事はどちらかということと応援記事となりがちであり冷静に受け止める必要があるだろう。 ◇岡山フィルハーモニック管弦楽団が公演事業の中心であることはいうまでもない。公演内容の構成、音楽のクオリティ、その前提としてのプレイヤーの意識、若年層の集客などの課題に直面している。ただしこれらはどのオーケストラも抱えているもので中期的なテーマでもある。簡単ではないが構造的なものも含め解決に向けたこれからの粘り強い努力が期待される。 ◇第81回定期演奏会では同オーケストラ初のマーラーに挑戦という企画で第5交響曲が演奏された。指揮は体調不良の秋山和慶氏の代役キンボーイシ氏であった。要所には都心オーケストラのプレイヤーを配した構成ではあるが現在の岡山フィルハーモニック管弦楽団の力量全開のコンサートであり、会場は大きな拍手に包まれた。この難曲に果敢に取り組んだ意欲は高く評価していいだろう。		
	②レジデント・カンパニーの活動への評価……………	②新聞等記事にて評価を得る。 ②-2)アンケートで「岡フィルの公演をすすめた」との回答が93%以上(前年度実績92%)	②「どんな状況でも同じクオリティーを見せるプロ楽団としての真価を発揮した」 ・[2024.12.16山陽新聞朝刊] 「岡フィルのポテンシャルをさらに多くの人に知ってもらいファン層やマーケットを広げる好機でもある」 ・[2025.3.13山陽新聞朝刊]第83回定期演奏会 「世界的指揮者の意志を受け継ぎ、楽団が一層発展することを期待したい」 ②-2) 岡フィルの公演をすすめた189.3%【達成率95%】				②地域文化振興・連携(評価指標:レジデント・カンパニーの活動評価) 岡山フィルハーモニック管弦楽団の活動評価は89.3%で【目標未達成】。山陽新聞では高い評価を得ており、将来の発展に期待が寄せられている。とはいえ、若年層の新規ファン獲得が引き続き課題である。
	③岡山シンフォニーホール友の会 会員数……………	③前年度より10人の増(前年度末実績892人)	③会員数907人(前年度末実績から15人増)【目標達成】				③会員基盤の拡充(評価指標:岡山シンフォニーホール友の会 会員数) 会員数は目標を達成し、前年を上回る結果となった。観客満足度の向上が直接的に貢献したと考えられ、今後も運営改善や広報強化を通じた継続的な取り組みが有効とされる。
人材養成事業	①専門人材育成事業での育成者数の累計数……	①3事業で570人、13団体(前年度までの実績537人、13団体)	①3事業で575人、13団体【目標達成】	① 育成者数、団体の増加(評価指標:参加者累計) 本年度の専門人材育成事業では、ミュージカル、SOLOIST、MOSTの3事業を通じて575人・13団体を育成、前年を上回る成果を上げた。量的には育成対象の拡大に成功し、目標を達成した。 ② 公演実施後の反応(評価指標:アンケート評価) 3事業の平均満足度は90.1%と高く、ミュージカル91%、MOSTでは92.9%の満足度を得るなど、参加者・観客から好意的な反応があった。SOLOISTでも演奏の質や構成に対して多くの好評が寄せられ、育成の成果が現れているといえよう。 ③ 指導者による評価(評価指標:課題への取り組み達成度) 指導者からの評価も概ね良好で、課題への取り組みの達成度は平均95.5%と高水準だった。ミュージカルでは基礎力や精神面の課題も見られたが、受講者自身が認識し、成長の兆しが見られた。SOLOISTでは音楽に向き合う姿勢が評価され、MOSTでは出演者自身の意識の変化が確認された。なお、(一社)The Mostの設立目的の一つである若いメンバーに続く、10代の次世代の音楽家を目指す人材を育成するという趣旨も、設立5年目で定着していると感じる。 総評 育成人数、参加者満足度、指導者評価のいずれにおいても高い成果が得られ、目標はおおむね達成された。一方、個別課題への対応や、指導者不在の事業での評価体制の整備など、今後の改善点も明確となった。次年度は、基礎力向上や精神面のサポートを強化し、より質の高い人材育成を目指す。	◇人材養成は専門要員育成であり短期的な成果が出にくい事業である。その中でも各事業の指標や評価はいずれも高く、安定している。 ◇公演調査では人材養成ー1「ミュージカルアカデミー」のデモンストレーションに立ち会った。これまでは2010年から「ミュージカルワークショップ」の形となっていたが、これを将来のミュージカルスターを育成する目的のもとにハイレベルの講座として改組し「ミュージカルアカデミー」を組織した。小中高生24名が参加した若々しく意気軒高な雰囲気であった。 ◇I am a Soloist, The MOST in Japanも高評価で「将来は音楽の道を志してほしい」との理事の感想もある。これまでの努力の成果であり、評価できる。 ◇ただし将来音楽家を目指すには岡山シンフォニーホールとしての＋アルファが必要か。例えばより高度なコースを設定する、あるいは中央(東京)との連携が整備され発表の機会が広がるなどの仕組み作りもあるかもしれない。		
	②育成対象者の公演実施後の反応……	②アンケートで好評価を得る(「期待通り」もしくは「期待以上の」成果ありの回答が52%以上)	②＜好評価＞3事業の平均90.1%【目標達成】 ・(ミュージカル)満足以上が91% ・(SOLOIST)出演者満足度85.7% ・(MOST)満足度92.9%				②公演実施後の反応(評価指標:アンケート評価) 3事業の平均満足度は90.1%と高く、ミュージカル91%、MOSTでは92.9%の満足度を得るなど、参加者・観客から好意的な反応があった。SOLOISTでも演奏の質や構成に対して多くの好評が寄せられ、育成の成果が現れているといえよう。
	③指導者による評価…	③インタビューで概ね好評価を得る。成果と今後の課題を把握する。アンケートにより、指導者から見た課題への取り組み達成度が78%以上(前年度実績76%)	③＜成果と課題＞ 達成度:平均95.5% ・(ミュージカル)今後の課題:基礎力の向上・精神コントロールに課題を感じる受講生が多い。(講師コメントより) ・(SOLOIST)課題への取り組みの姿勢、達成度:平均95.5%(指揮者総評より) ・(MOST)今回初めてステージに上がったリストも、将来は音楽の道を志してほしい(理事の感想)				③指導者による評価(評価指標:課題への取り組み達成度) 指導者からの評価も概ね良好で、課題への取り組みの達成度は平均95.5%と高水準だった。ミュージカルでは基礎力や精神面の課題も見られたが、受講者自身が認識し、成長の兆しが見られた。SOLOISTでは音楽に向き合う姿勢が評価され、MOSTでは出演者自身の意識の変化が確認された。なお、(一社)The Mostの設立目的の一つである若いメンバーに続く、10代の次世代の音楽家を目指す人材を育成するという趣旨も、設立5年目で定着していると感じる。
普及啓発事業	①全事業の参加者数……	①4事業中2事業での目標参加者数を達成、総参加者数3,400人	①4事業中2事業(対象者を限定していない事業)の目標参加者数1,590人、実際の参加者数1,937人で目標達成、4事業の総参加者数は3,542人で目標を【達成】。	①事業全体の参加者数 4事業中、対象者を限定しない2事業では、目標参加者数1,590人に対し実数1,937人となり、目標を上回る成果を得た。総参加者数は3,542人に達し、事業全体として目標を達成したと言える。 ②初めての来館者数 来館者アンケート中35.6%が「初めての来館」と回答があり、目標未達成ながら新たな層の来館促進につながったと判ぜられる。継続的な来館・定着への第一歩として意義深い成果といえる。 ③関係者(受入先等)による評価 アンケートを実施したすべての受入先施設から「また実施してもらいたい」との回答が得られた。事業内容や運営方法に高い評価を受けており、地域や関係団体との良好な信頼関係が長年継続していることで、事業が地域に定着していることがうかがえた。 ④参加者の反応 非常に良好であり、「また参加したい」との回答割合が89.7%に達した。体験型の内容が参加者に強い印象を残し、次回への参加意欲を高めていることがうかがえる。 総評 新規来館者の獲得、関係者からの信頼、参加者の満足度のいずれにおいても高い成果が得られた。今後はリピーターの定着と関係機関との連携強化により、さらなる施設の魅力向上を目指し、各施設との意見交換を活発に行いたい。	◇初めての来館者数(②)の目標値は達成できなかったものの、関係者による評価(③)や参加者の反応(④)は目標値を上回る成果が確認され、長年の取り組みにより普及啓発事業が地域に定着しており、劇場法における拠点事業としての役割を果たしているといえる。 ◇普及啓発事業ー1「小・中学校音楽鑑賞教室」は、25年にわたり継続して実施されており、小・中学生を対象としたオーケストラ公演である。楽器紹介のコーナーが設けられた後、オーケストラの各楽器の特徴が際立つ、ブリテン作曲「青少年のための管弦楽入門」が演奏された。これにより、子どもたちは各楽器の個別の音色と、オーケストラとして調和した音色の違いに気づき、好意的な反応が得られたようである(意見交換より)。今後も演奏会としての実施にとどまらず、学びや気づきを促す内容へと事業が発展することが期待される。 ◇普及啓発事業ー2「ファミリーコンサート」、-3「レインボーコンサート」、および-4「岡山大学」ホールレインボーコンサート」は、社会包摂の取り組みとして、多様な層に音楽を届けることを目的に長期にわたり実施している。今後も各施設との連携を強化し、事業の継続とさらなる発展が期待される。		
	②初めての来館者数……	②アンケート回答者の43%以上が「初めての来館」と回答	②初めての来館者35.6%【未達成】				②初めての来館者数 来館者アンケート中35.6%が「初めての来館」と回答があり、目標未達成ながら新たな層の来館促進につながったと判ぜられる。継続的な来館・定着への第一歩として意義深い成果といえる。
	③関係者(受入先等)による評価……	③「また実施してもらいたい」との回答が80%以上	③アンケートを実施したすべての施設から「また実施してもらいたい」との回答100%【目標達成】				③関係者(受入先等)による評価 アンケートを実施したすべての受入先施設から「また実施してもらいたい」との回答が得られた。事業内容や運営方法に高い評価を受けており、地域や関係団体との良好な信頼関係が長年継続していることで、事業が地域に定着していることがうかがえた。
	④参加者の反応……	④アンケートの回答者の50%以上が「また来たい」と回答	④また参加したい89.7%【目標達成】	④参加者の反応 非常に良好であり、「また参加したい」との回答割合が89.7%に達した。体験型の内容が参加者に強い印象を残し、次回への参加意欲を高めていることがうかがえる。			

(2)「創造性・企画性」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

① **多様なジャンルの融合による新しい音楽体験の創出(SOLOIST)**
「若いソリストのすばらしい演奏や歌声もよかったです。オーケストラがその演奏によく合って響きが良かったです。」「いろいろなジャンルのソリストとの共演が楽しめた。」「鑑賞者アンケートより」といった観客の声から、多様な企画が高く評価されていることが分かる。ソリストとオーケストラの調和を意識した演出は、曲順やプログラム構成において創造的な精進力を必要とするが、その点が評価された事例と言える。なお、今後への課題を指揮者・横山奏氏からアンケートにおいて次のようにご指摘いただいた。「私たちの舞台上で見せるものは常に音楽であり、芸術である。自分の心の声を聞き、音楽の本質に触れようとする努力をしてください。」これは、ステージに立つ若いソリストや演奏者のみならず、裏方として舞台を支えるすべてのスタッフにも当てはまる揺るぎではない信念であると理解している。

② **音楽表現を通じた自己成長の促進(ミュージカル・MOST)**
The MOSTに選出された2名のソリストへのアンケートから「他の楽器の役割や全体バランスを意識するようになった」「スコアを見て考えるようになった」との声が寄せられ、個々の音楽的思考力や自己分析力の向上が確認された。ミュージカルでは、参加者へのアンケートから基礎力や精神的なコントロールへの課題を自覚していることが伺えた。一方、講師へのアンケートでは課題を自覚することで内面的な成長につなげている姿勢が評価されている。

③ **地域・教育機関との連携による社会的創造性の発展(岡山県立大学 親子コンサート)**
岡山県立大学にて15年間継続している親子向け演奏会が地域に定着し、「楽しみにしている」との声が多く寄せられた。さらに、子育て支援事業との連携や、大学の保育者養成教育の一環としても機能しており、企画が教育・福祉・デザインの分野へと広がっている。なお、2024年度岡山県立大学における本事業は、総社市から「事業として評価しているが子ども課からの予算からは支援できない」との判断が下され、苦境に立たされた。大学内にて、「県大そうじゃ子育てカレッジ実行委員会」を新たに結成し予算を捻出しており、ようやく開催となった。開催後、本公演の効果により継続事業とする方針もいただくことができた。

④ **鑑賞体験の演出における創意工夫／設備制約下での柔軟な対応と企画力(岡山県立大学 親子コンサート)**
「アンケート前に児童生徒から自然と拍手が起きた」「車椅子のお子様前列で鑑賞できたことが嬉しかった」など、観客と演奏者の距離が近い設計により、心に残る体験が演出された。また、楽器を展示して触れる機会の提案など、今後の創造的な改善案も多く寄せられている。

会場施設側からは「ステージの座席配置を少し開いた形にすると、より多くの来場者に見やすくなる」といった具体的な意見や、「設備の老朽化に対する不安の中でも、素晴らしい演奏が行われた」との評価があった。舞台担当者はこうした制約にも柔軟に対応し、最大限の音響・視覚効果を追求した姿勢が見られる。

【まとめ】
人材養成事業：着実に将来の音楽家を要請への成果の手応えを感じている。
普及啓発事業：ステークホルダーの方々が、事業効果を実感され事業継続について負担も含め協力が高まっているのを感じた。
本年度の実施事例から、創造性・企画性の向上は、参加者・指導者・観客・地域関係者のそれぞれの視点から明確に確認された。特に、演出面での多様なアイデア、教育的意義を含んだプログラム設計、観客の声を活かした改善提案など、企画そのものの質を高める動きが広がっている。今後は、これらの成果を基に、より多様なニーズに応えられる創造的な事業展開へと繋げていきたい。

評価項目②:国際性(任意)

評価の観点
・(国際プレゼンスの向上)海外の劇場やフェスティバル、実演芸術団体等と連携し、国際共同制作や海外作品の招聘等に取り組んでいる。 ・(国際交流)アーティストや文化芸術関係者の招聘等、人的交流や情報交換が行われている。 ・(新たな創客への取組)在住外国人や訪日外国人に向けて文化芸術体験の機会を提供する等、グローバルな視座で創客に取り組んでいる。 ・自由設定の観点(任意)

- (1) 令和6年度の自己評価
- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など

- (2) 「国際性」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

評価項目③:地域文化拠点機能

評価の観点
・(文化拠点)地域の特性やニーズを踏まえ、地域の文化資源を活用するなど、地域の文化拠点として事業が組み立てられている。 ・(地域連携)地域の関係機関と連携・協力し、地域コミュニティの創生や社会課題の解決等に取り組んでいる。 ・(児童生徒への機会提供)次代を担う子ども達を対象とした鑑賞や体験事業が行われている。 ・ホール利用サービス(貸館事業)の向上 ※ 利用にかかるアドバイスや支援が適切に行われている。 ・自由設定の観点(任意)

※ ホール利用サービス(貸館事業)を行っていない場合は不要

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評定	所見	対応・追加情報など
①貸館利用者の満足度……………	①87%以上が対応に「充分満足」と回答 67%以上が「次回も利用したい」と回答	①対応に「充分満足」 94%【達成】 「次回も利用したい」 75.4%【達成】	① 貸館利用者満足度 地域の中核ホールとして30年以上の安定した運営を続けており、利用者・鑑賞者との強固な信頼関係が高い満足度を維持している。	◇貸館利用者においても満足度が高く、信頼関係があるのは喜ばしい。	
②未就学児から入場できる公演への総参加者数……………	②2,240人以上の参加者を得る	②2,775人の参加者【達成】	② 公演総参加者数 未就学児も参加可能な公演では高い参加者数を記録。親子向け演奏会の需要の高さを示し、0歳児から参加できる「親子deクラシック」「シンフォニーは友達」公演が毎年好評である。	◇主催公演についても良い評価でホールに愛着を感じる比率の急伸は評価できる。コメントにもあるようにこれから休館に入ること意識が覚醒したともいえる。	
③市内小中学校の参加率(累計)……………	③目標:48.9%(70校/143校) (前年度実績48.2%(69校/143校))	③52.2%(71校/136校)【達成】	③ 岡山市内小中学校の参加率 累計71校が本事業に参加した。学校統廃合により全校数が136校に減少するも、教育機関との密な連携が維持されており、新規参加校も着実に増加している。	◇気持ちの前向きな変化はやや目標に満たないもののポジティブな行動の変化が一部認められる、という自己評定は芸術の本質的価値が顕現したものみられる。	
④連携団体数(教育機関、福祉分野等)……………	④21団体との連携を実現	④25団体と連携(予定より4団体増)【達成】	④ 連携団体数、⑤「岡山シンフォニーホールに愛着を感じる」 連携団体数は21団体に増加。ホールに愛着を持つ団体割合も高く、利用者アンケートでは「ホールに愛着を感じる」との回答が目標値29%に対して82.9%を記録した。改修による休館をきっかけに、ホールの価値を見直すきっかけになったと推察される。	◇岡山フィルハーモニック管弦楽団は市内のジュニアオーケストラや高校・大学の吹奏楽部等との連携も深まり、座付きオーケストラとしての存在感を高めている。	
⑤シビックライフトの醸成……………	⑤「岡山シンフォニーホールに愛着を感じる」との回答が29%以上	⑤OSHIに愛着を感じる 82.9%【大幅に達成】	⑥ 「気持ちがプラスへ変化」、⑦ポジティブな行動変化 施設利用により「気持ちがプラスへ変化」した人の割合は、目標値に至らなかった。だが、多くの利用者がポジティブな気持ちへの変化を実感している。岡山市小中学校音楽鑑賞教室のアンケートからは、子ども達の「ポジティブな行動変化」が読み取れる。芸術に触れた子どもたちの行動が教師から報告されている。当ホールにおける事業の約7割が音楽関連であり、ホールが担っている地域の中核として果たす文化的な役割を窺い知れる例である。	◇他の多くの地方オーケストラはその点において長い年月のなかでたゆまぬ努力を行い他との差別化をはかり自立した存在感を示している。岡山フィルハーモニック管弦楽団も他のオーケストラとの差別化はかる時を迎えている。	
⑥生活の質(QOL)の向上……………	⑥「気持ちがプラスへ変化」との回答が79%以上	⑥気持ちの「変化あり」75.0%、且つ「プラス(心地よい、幸せ、楽しい)へ変化」が81.7%【未達成】	⑧ 友の会会員数、⑨岡山フィルハーモニック管弦楽団賛助会員数、⑩ホールサポーター数 長年にわたる活動実績と利用者との信頼関係の蓄積が、「ホールの理解者」を増加させた。	◇岡山シンフォニーホールは地域の総合的な文化拠点としての機能を果たしている。ただしハレノワができたこともあり、今後は2025年6月からの休館のマイナスの影響を払拭しうる中期的ビジョンの設定と対外的広報が課題であろう。	
⑦他者から見た子どもたちの変化……………	⑦アンケートでポジティブな行動変化の記述を得る	⑦「音楽についての発言が増えた」「ホールを出た瞬間から、目をキラキラさせて『すごかったね』と言い続けていました。心が動き、そのことを共有できるという、大変貴重な機会となりました」(岡山市小・中学校音楽鑑賞教室 教師へのアンケートより)【達成】	⑪ 市外からの顧客割合 岡山市外からの利用割合の増加は全国規模の巡回公演数減少も要因である。一方で当ホールでは地元団体との連携を強化し多様な年代層の地域住民に利用され続けており、これは強みである。		
⑧岡山シンフォニーホール友の会 会員数……………	⑧前年度より10名の増(前年度末実績892名)	⑧友の会会員数907人(前年度末実績から15人増)【達成】	岡山シンフォニーホールは、利用者アンケートから「立地の良さ(62.9%)」「スタッフの対応(58.6%)」「施設の使いやすさ(50%)」が高く評価されている。スタッフの丁寧で柔軟な対応が満足度に大きく寄与しており、アンケートでは「どのスタッフにも親切に対応いただいた」「丁寧な臨機応変に対応してくださる」といった声も多く、顔の見える歩み寄った対応が高い信頼につながったと言えよう。		
⑨岡山フィルハーモニック管弦楽団 賛助会員数……………	⑨前年度より企業/3社、個人/3名の増(前年度実績 企業/92団体、個人/131名)	⑨賛助会員 企業/93団体、個人/111名(前年度末から企業/1団体増、個人/20名減)【未達成】			
⑩ホールサポーター(市民ボランティア)の数……………	⑩前年度実績の20%増	⑩ホールサポーター R6年度実績11名(前年度から2名増)【達成】			
⑪市外からの観客割合……………	⑪目標:40%(前年度実績39%)	⑪市外からの割合(定期・特別・第九・SKOプラス) 35.6%【未達成】			

(2) 「地域文化拠点機能」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

岡山シンフォニーホールは、音響性能・立地・人的サービスの三点において高い評価を得ており、長年にわたり地域文化の中核を担う施設として機能してきた。近年の取り組みとその成果から、当ホールの「地域文化拠点機能」が着実に向上していることを示す好事例を以下に示す。 ① 音楽教育と文化体験の“入り口”としての機能の定着 岡山シンフォニーホールは、毎年の吹奏楽コンクールの開催会場として、岡山県内のほぼすべての中学校・高等学校が利用しており、学生たちにとって「憧れの舞台」として認識されている。特に、私立・公立問わず幅広い学校が来館していることから、当ホールは音楽教育の中で象徴的な存在となっている。生徒たちがこの舞台に立つことを目標とすることで、日常の練習にも熱が入り、地域全体の音楽文化の水準向上につながっている。 ② 若手人材の育成とプロとの接点づくり 岡山シンフォニーホールの座付きオーケストラである岡山フィルハーモニック管弦楽団と連携し、岡山市ジュニアオーケストラや高校・大学の吹奏楽部・管弦楽部の若者を定期・特別演奏会へ積極的に招待している。これにより、プロの演奏を間近で体験する貴重な機会が提供され、将来の音楽人材育成に直結している。また、このような機会を通して、演奏者だけでなく鑑賞者としての意識も醸成されており、「鑑賞マナーの向上」という副次的な成果も見られる。これは、若年層を含む幅広い世代が共に音楽を楽しむ空間づくりにも寄与している。 ③ 「音・立地・人」で選ばれる施設へ 当ホールは「音が良い」「立地が良い」「人が良い」という三拍子揃った評価を得ている。音響面では、アコースティック演奏に最適な設計が国内外から高く評価され、プロ・アマを問わず多くの演奏者に選ばれている。立地面でも、JR岡山駅から至近で、市内電車・バス路線など公共交通機関との接続が良好である。加えて、美術館や博物館、歴史的施設(岡山城・後樂園)との文化的連携が可能な立地であり、まさに文化的発信拠点としての役割を果たしている。 人的サービス面では、スタッフによる丁寧かつ親身な対応が好評で、特に高齢化が進む利用者層へのサポートや、会場設備の限界を人的サービスで補う姿勢が信頼を得ている。施設利用にあたっては、催事の内容や予算に応じた柔軟な提案がなされており、それが高い利用率と継続的な関係構築につながっている。 ④ 休館を通じて見えた地域からの信頼と存在意義 2025年6月から始まる約2年間の大規模改修工事を前に、最後の発表の場として利用を希望する団体が相次ぎ、一部では予定を前倒して発表会が開催された。これは、ホールが単なる施設ではなく、「地域住民の生活の一部」「文化活動の拠点」として根付いている証である。発表の場が一時的に失われることへの不安や生活の質の低下を懸念する声も寄せられており、その存在の大きさが再認識された。 休館期間前となる2025年5月には「また会お！シンフォニー」などの催しを企画し、改修前の施設をあらためて案内するとともに、改修内容を丁寧に伝える場を設ける予定である。 ホールが長く利用できないことへの不安を募らせる利用者や地域住民に、丁寧な説明と聞き取りを行うことでの関係性維持に努めている。既に、改修後の再開を見据えてスケジュール相談を始める団体もあるなど、ホールの再始動を待つ声は多く、今後の再開に向けた期待は大きい。 改修目的の第一は、特定天井(耐震天井)の適法化であるが、開館34年をむかえ徹底したバリアフリー化(障がい者対応)、トイレの快適性、設備機器の更新、舞台設備の安全性向上などを工事項目としており、地域の中核ホールとして今後半世紀にわたり最高の音楽性能を持つホールとして生まれ変わるための改修に着手する。 総括 これらの事例から、岡山シンフォニーホールは単なる音楽施設にとどまらず、教育・人材育成・地域文化の共有・世代間交流など、複合的な文化拠点としての機能を果たしていることが明確である。今後、改修工事を経て施設機能が向上することで、さらにその拠点性を強化し、地域の文化的アイデンティティを支える存在としての役割を拡大することが期待される。
--

評価項目④:多様性とアクセシビリティ

評価の観点
・(プログラムの多様さ)プログラムの種類や形態が多様で、幅広い観客や参加者に訴求する。 ・(参画者の多様さ)アーティストやスタッフとして参画する人々の属性(性別、年代、居住地、他)が多様である。 ・(アクセシビリティ)障がいの有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、あらゆる人々と実演芸術をつなぐため、施設の構造・設備上の配慮、プログラム上の創意工夫やサポート、アウトリーチ等が行われている。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
①若年層の利用者割合(ユースシート)****	①販売総枚数の7.6%以上で目標達成(前年度実績7.5%)	①9.21%【目標達成】	岡山シンフォニーホールでは、地域文化の発信拠点として、文化芸術へのアクセス格差を縮める多様な取り組みを実施している。 ① 若年層の利用者割合(ユースシート) ユース層の鑑賞機会を広げるためのユースシート制度では、全体販売枚数の9.21%を若年層が占め、前年と目標を大きく上回った。学校・地域との連携やSNS活用が効果を上げた。来館をきっかけに若年層のリピーターも増え、将来的な担い手育成にもつながっている。 ② アウトリーチ公演(連携施設・参加人数) 福祉施設、病院、支援学校などと連携し、文化体験の機会を提供。96施設・9,076人と目標を達成し、支援学校からも好意的な反応があった。「いつもと違うことを味わいたい。提供してくれることがありがたい」との声もあり、子どもたちは感情豊かに鑑賞していた。施設の要望に応じた柔軟な対応が成果につながった。 ③ 社会包摂のための招待(ひとり親家庭・被災者等) 7公演で152人を招待した。東日本大震災などの災害被災者や、ひとり親家庭に声掛けを継続してきたが、参加人数は徐々に減少している。これは、コロナ禍を乗り越え、多様な催し物が復活する中で、災害被災者やひとり親家庭の方々の選択肢も増えたためと認識している。今後は、倉敷地区の水害や岡山市南区の森林火災など門戸を広く設け、より多くの人々にとっての心の癒しを提供するきっかけとして活用したい。 総評 3指標中2項目は目標を達成し、若年層支援とアウトリーチ活動では大きな成果を上げた。一方、社会包摂では課題も見られた。誰もが文化芸術に触れられる環境づくりに向け、柔軟かつ持続可能な取り組みを今後も推進していく。	◇若年層対応や施設へのアウトリーチにもうまく取り組み成果を上げている。 ◇社会包摂関連(障がい者へのソフト面、設備面の対応等)は普段と異なる対応であるためハードルは高い。特に近年の地震、豪雨、新型コロナウイルスなどの災害や少子高齢化などの社会環境の急激な変化が生じたことに伴い、文化施設の取り組みニーズは高まっている。 ◇出かけることが困難な子供たちへのアウトリーチ、長期療養所への訪問演奏、大学病院内演奏の病室へのライブ配信などは喜ばれており評価できる。 ◇岡山シンフォニーホールはこれらの期待に応えられる窓口として今後も一層の活動が期待される。	岡山シンフォニーホールは複合ビルの中にあるホールである。そのため、ホール専用エレベーターがなく、催事の際は、車いす、杖、手押し車、自立歩行、視覚障害、盲導犬・介助犬等のエレベーター利用を必要とするお客様への対応は、開館当初よりビル全体の共用エレベーターを使用してきた。ご案内にはお客様のご要請に応じてスタッフが付き添い、臨機応変に対応を行っている。対応件数は催事件数による変動はあるものの、年間400～650件となる。 このように、岡山シンフォニーホールでは、ハード面での課題をマンパワーにて補ってきたが、2025年6月からのホール改修工事において、館内設備のバリアフリー化について可能な限りの改善を行うこととしている。具体的には岡山市福祉のまちづくり条例に沿って、障がい者の方々との協議を重ねながら改修工事の設計を行ってきた。例えば、階段等のスロープ化、視覚障がい者への点字ブロック等の新設である、トイレ設備については、客席各階への多目的トイレの新設や各設備の新設を行っている。 時代に即した改修を行いつつ、並行して来館者に寄り添った対応を、今後も継続する。

(2) 「多様性とアクセシビリティ」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

公演を通じて、多様性とアクセシビリティの向上が確認できた実践例を紹介します。
<レインボーコンサート> ・【岡山支援学校】 弦楽四重奏の編成にて学校に訪問し、演奏会を実施した。演奏会に出かけることが困難な子どもたちにとって、日常とは異なる“非日常”の体験を学校で味わえる貴重な機会となった。先生方から「学校まで演奏者が訪れてくれることは有難いことだ」との声が寄せられた。演奏終了後、最後まで会場に残り出演者と写真を撮影した女の子がいた。「(岡フィルは)憧れです。私も何か楽器をやりたいと思います」と将来の目標につながるような発言も見られた。 ・【長島愛生園】 (国内初の国立ハンセン病療養所であり、入所者の最盛期は3千人以上が島内で生活をしていた。現在も80名ほどの入所者が生活しており、その平均年齢は88歳を超えている。) 80代以上の高齢者が多く暮らす長島愛生園では、ホールへ足を運ぶことが困難な方々に向け、施設内での出張演奏を実施。生の音楽を鑑賞したいとの思いは強く、入居者にとって演奏者が出向いてくれる本公演はとても喜ばれている。 「(年を経て)もう歩けないから、来てくれてうれしい」との感想が寄せられ、本公演が大きな喜びをもたらしたことを伝えた。 ・【岡山市民病院】 入院患者や見舞いの家族も含め、病院内で演奏会を実施。コンサート会場に足を運べない状況下でも、安心できる環境で音楽に触れる機会を提供。「親族が入院していると音楽会には行きにくい。そんな中病院で演奏してくれるのはとてもありがたい」との声が聞かれ、心の癒しや支えとなる時間となった。 ・【中国学園(こども園)】 音楽教育に積極的な学園にて、演奏者が出向き弦楽四重奏を披露した。子どもたちは演奏が始まるとすぐに反応し、Creepy Nuts「Bling-Bang-Bang-Born」とNHK教育テレビの『おかあさんといっしょ』より「ぼよん行進曲」などの知っている曲では一斉に歌い踊るなど、会場全体が盛り上がりを見せた。次年度入園予定の子どもたちとその保護者も同席する中、音楽が子どもたちの情緒や感受性に与える影響の大きさを改めて実感する場となり、先生方からは「過去最高の盛り上がり」との評価を受けた。 <その他の公演や演奏会時の事例> ・【ポケットサポート】(認定特定非営利活動法人であり、長期入院や療養にて学習や体験の機会を失ってしまった子どもたちを支援し、イベント活動や孤立感解消のためのコミュニティ作りの企画・実施を行う団体である。) 病気により通学が困難な子どもたちのために、岡山大学病院敷地内にあるJホールにて演奏と同時にライブ配信を実施。病室からの視聴も可能とし、拍手などを通じて演奏に参加できる構成としたことで、リアルタイムの一体感が生まれた。企画者からは「コロナ禍を経て、一番やりやすくなったのはライブ配信。今までは会場に行くことのできない子どもは取り残されていた。配信の技術が向上・発達したことで、ライブの音と一体感を共有することができるようになった」と話していた。 ・【岡山フィルハーモニック管弦楽団定期演奏会】 視覚障害のある方々への対応も継続的に行われており、盲導犬同伴や白杖利用の来場者も受け入れている。スタッフ間での情報共有や来場対応体制が整っており、誰もが安心して音楽を楽しめる環境が提供されている。 <まとめ> これらの取り組みは、音楽を通じて多様な人々にアクセス可能な体験を提供し、文化の包摂性を高める好例となっている。今後も多様性とアクセシビリティを重視した活動を継続する。

評価項目⑤: 自由設定(任意)

①創造性・企画性、②国際性、③地域文化拠点機能、④多様性とアクセシビリティ、⑥運営体制と持続可能性 の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。

評価の観点
・(児童生徒への機会提供)県下の学校へのアウトリーチ公演を実施し、子どもたちの豊かな感性と情操を育む。 ・(地域連携)地域の関係機関と連携・協力し、地域活性化に取り組む。

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
・学校公演数(累計)..... ・スポーツ、美術館、博物館、図書館、商店街、観光施設等との連携数.....	1,390校(前年度実績1,356校(H5(1993)年度～)) 10公演	①R6年度36校、累計1,392校【目標達成】 ②11か所16公演【目標達成】	本年度は、文化芸術の地域への浸透と、多様な層へのアプローチ強化を図るため、教育機関および異分野との連携による公演活動を中心に展開した。 ① 学校公演数(累計実施校数)(平成5年度(1993年度)からの累計による学校公演実施校数) 30年を超える長期的な取り組みにより、岡山県内の小中高を中心とした多くの学校に音楽・芸術体験の機会を届けてきた。年間を通じて新規校を安定して獲得できている点からも、教育現場における芸術鑑賞機会としての信頼性が高まっていることがうかがえる。また、学校側からの継続要望も多く、今後の展開としては、単なる公演の提供にとどまらず、より深い学びや交流を可能とするプログラム構築を検討している。 ② 他分野施設との連携数・公演実績(美術館、図書館、博物館、商店街、観光施設、スポーツ施設等との連携数および公演実施数) 本年度は、美術館や図書館、商店街といった地域の拠点施設と連携し、音楽と地域資源との相互作用による新たな文化体験を創出した。プラネタリウムで開催した演奏会では、満足度の平均が93.8%と非常に高く、アンケートからは「星空と生演奏ぜひいたくな時間でした」との感想が聞かれた。岡山県が誇る大原美術館とのコラボレーションでは、「アートとクラシックの融合が素晴らしい」との感想が聞かれ、岡山における芸術文化の担い手を掘り下げ、市民に再認識いただく機会を設けることができた。特にスポーツイベントでの演奏では、J1リーグに昇格したファジアーノ岡山を始めとする地元選手・関係者と観客との一体感を促す起爆剤となった。池田動物園とのコラボレーションを実現した「シンフォニーは友達」では、「動物園」をテーマとした親子向け演奏会・ワークショップとして開催し、ジャンルを越えて楽しく学ぶことのできる催しを実現した。 これらにより、ホール内外での芸術活動の展開力を広げるとともに、文化の裾野を広げる取り組みとして、社会的意義の高い成果を挙げたと評価できる。 総括 両評価項目において、前年度を上回る成果が得られ、岡山シンフォニーホールが地域文化の担い手としての機能を着実に果たしていることが実証された。学校現場での芸術教育支援、他分野連携による社会包摂型の文化活動など、分野横断的な取り組みにより、地域住民の文化享受機会の拡大にも貢献している。 今後は、これらの成果をさらに発展させるために、既存連携の深化とともに、未開拓分野や新たな協働先との連携の可能性を探り、より多様で包摂的な文化発信の在り方を追求していきたい。	◇アウトリーチや学校との連携などは、劇場法が求める事項である。 【劇場法第3条】 3 実演芸術に関する普及啓発を行うこと 4 他の劇場、音楽堂等その他の関係機関等と連携した取組を行うこと この実現のためシンフォニーホールは緻密で細かい配慮のもとに真摯に取り組んでいる。そのことが学校公演累計やスポーツ、美術館、博物館、図書館等との連携か所を増やし、地域における好印象と信頼を勝ち得ている。岡山シンフォニーホールは地域文化の担い手としての役割を十分に果たしているといえる。	

評価項目⑥: 運営体制と持続可能性

評価の観点		現状	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
「実現性」の評価項目より							
(ア)	(多様な財源の確保) 予算計画が妥当であり、事業収入のほか、各種助成金や寄附金・協賛金等の獲得に努めている。						
(イ)	(広報・営業力) 広報計画が充実しており、券売や集客、会員制度等の拡充に努めている。						
(ウ)	(他館連携) 他の劇場・音楽堂等との事業連携や協力・支援を通じて、効果的で効率的な事業運営を行っている。						
(エ)	(設置者) 円滑な事業の継続のため設置者と適切に意思疎通を図っており、設置者による人材や財源の確保等が期待できる。						
「持続可能性に関するチェックシート」より							
(オ)	(芸術監督) 芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材が配置されている。						
(カ)	(長期的経営) 長期的視点に立ち、劇場運営を統括する、経営実務者が配置されている。						
(キ)	(専門人材の確保) 今日的な劇場運営に必要な職能や専門性を踏まえ、運営体制が整備されている。あるいは専門人材の確保や育成に努めている。						
(ク)	(職制の整理) 芸術監督、館長、支配人、プロデューサー、その他管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。						
(ケ)	(世代間バランス) 年齢バランスを考慮した人材確保を行っている(若年層の雇用に努めている)。						
(コ)	(ジェンダーバランス) 女性管理職比率が30%以上である。あるいは、女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。						
(サ)	(ワークライフ・バランス) 仕事と育児・介護等の両立支援制度を整備し、推進している。						
(シ)	(コンプライアンス順守) 情報セキュリティをはじめ、各種コンプライアンスの順守規定を策定し、必要な研修を行っている。						
(ス)	(ハラスメント防止対策) 職場内及び創作現場におけるパワー・ハラスメント、セクシュアル・ハラスメント等防止のための指針等を策定・周知し、必要な研修を行っている。						
(セ)	(適正な契約事務) アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。						

4. 総評

・ 団体の自己評価

令和6年度は、岡山シンフォニーホールが地域文化の中核施設として果たすべき役割を、多角的かつ戦略的に実践した一年であった。公演事業、人材育成、普及啓発、地域連携、多様性・アクセシビリティの推進において、各分野で具体的な成果を積み重ね、また今後の改善点や新たな課題も明確化された。

1. 公演事業における成果と課題

岡山シンフォニーホールの座付きオーケストラである岡山フィルハーモニック管弦楽団による定期・特別演奏会では、観客満足度およびリピーター率が目標を超え、高品質なプログラム内容や若手ソリストの登用など、長年の企画蓄積が着実に成果に結びついていることが確認された。他公演でも高い満足度が得られた一方で、かねてからのワークショップへの参加制限や若年層の来場者の少なさといった課題が浮き彫りとなった。

特にベートーヴェン「第九」や津山定期演奏会では、来場者の多くがリピーターまたは出演者の関係者であり、全体として観客層の高齢化傾向が進んでいる。今後は、次世代の観客獲得に向けた戦略的な広報・企画が求められる。2025年度は、これまで岡フィルが活動拠点としてきた岡山シンフォニーホールの大規模改修に伴う2年間休館により、公演事業は全て岡山県内外のホールで行うこととなる。通常と異なる環境で新たにファンを獲得することが求められるが、これを契機にこれまでと異なる地域や観光課との新たな連携・コラボレーションにて新規広報・宣伝方法を試みる。

2. 人材養成事業の実績と波及効果

ミュージカル、I am a SOLOIST、MOSTの3事業を通じて575人・13団体を育成し、前年を上回る実績を挙げた。参加者アンケートの平均満足度は90%を超え、指導者からの課題達成度評価も平均95.5%と極めて高く、育成対象者の成長と質の向上が明確に確認された。

特にI am a SOLOISTでは、音楽に対する内面的な探究姿勢が評価されるなど、演奏技術だけでなく精神的成長も見られた。今後は、基礎力の更なる強化、精神面のフォローアップ体制の構築が課題となる。

3. 普及啓発事業の地域定着と可能性

総参加者数3,542人を記録し、うち1,937人が対象者を限定しない2事業に参加するなど、来館者の幅広さと事業の浸透が確認された。初来館者割合は35.6%と目標には達しなかったものの、新規層の取り込みとして意義ある成果を示した。加えて、関係者からの高い評価と、89.7%に及ぶ再来意向の高さが、事業の質の維持と参加者との信頼関係を裏付けている。今後はリピーター化の促進と、新たな来館者層への情報提供方法の工夫により、施設の利用者基盤をさらに安定・拡大させていくことが求められる。

4. 地域拠点機能の深化とその影響

岡山シンフォニーホールは、30年以上にわたり地域の中核ホールとして多様な文化活動を支えてきた。特に0歳から参加できる「親子deクラシック」など未就学児も対象とする公演が広く認知され、毎年完売となるなど子育て世代や若年層の文化体験の受け皿として機能している。

また、岡山市内の小中学校による参加は71校に達し、全校数の半数以上に及ぶ。利用者アンケートでは「立地の良さ」「スタッフ対応」「施設の使いやすさ」が高評価を得ており、柔軟かつ丁寧な接客がリピーター率やホールへの愛着につながっている。加えて、心理的・行動的な変化を促す公演の効果も報告され、文化施設としての社会的価値の高さが改めて示された。（小中鑑賞教室）

5. 多様性とアクセシビリティに関する取組

定期演奏会のユースシート制度では、若年層の利用が9.21%を占め、目標を大きく上回る成果を達成した。また、社会包摂事業の福祉施設・病院・支援学校等へのアウトリーチ公演は、96施設・9,076人という実績を残し、「いつもと違うことを味わいたい。提供してくれることがありがたい」との感謝の声も多数寄せられた。

一方、社会包摂を目的とした無償招待事業では152人の参加にとどまったが、これは東日本大震災やひとり親家庭に配布を限っていた面も理由の一つといえる。コロナ禍を経て多くの催しが選択肢に上がるようになった現在、今後は、倉敷地区の水害や、岡山市南区の森林火災などで心を痛めた地元の皆様にも招待の対象を拡大し、より多くの人が参加できるよう窓口を拡充させたいと考えている。加えて、日本語を学び、日本と母国と両方での社会活動を目指す日本語学校生徒の招待（岡山外語学院）も視野に入れている。

6. 異分野連携と新たな価値の創出

学校アウトリーチ公演は累計1,392校に達し、地域教育との連携が着実に進展している。また、クラシックと異なる分野とのコラボレーション事業として、美術館・プラネタリウム・動物園・スポーツ施設等との連携により、「絵画と音楽」「星空と音楽」「動物園×クラシック」「スポーツ×音楽」など新しい切り口の公演を実現。多くの来場者にとって記憶に残る体験となり、地域資源と音楽の融合による新たな文化価値の創出に成功した。

総括

本年度の事業運営は、公演・人材育成・普及啓発・地域連携・多様性推進といった多岐にわたる領域において、明確な成果と方向性を示すことができた。特に既存事業の深化とともに、次世代へのアプローチ、地域文化の再発見、包摂的な社会への貢献など、新たな価値創出にもつながっている。

今後は、来たる大規模改修を前に、これまでの成果を土台としながら、より包括的かつ持続可能な文化発信の仕組みづくりを進めていく必要がある。岡山シンフォニーホールは今後も、地域文化の中核として、未来の担い手を育て、地域と共に歩むホールとして、その使命を果たしていくことが期待される。

・ 所見

◇岡山シンフォニーホール（1991年設置）は30年におよぶ活動の成果が各事業において顕現したものとして報告されている。同ホールの存在はすでに地域の中核施設として認知され活用されているといえる。

◇人材養成事業（ミュージカル、I am a Soloist、The MOST in Japan）や多面的なアウトリーチは満足度や参加者数などが増加傾向にあり地域の支持を集めているといえそうだ。これは長年にわたる地道な取り組みの結果であり、現場の制作スタッフの努力には敬意を表したい。

◇時代の要請としての多様性・アクセシビリティにおける社会包摂の項目はまだ改善の余地ありとはいえ緻密な努力がなされており評価してよい。

◇他方事業の最大の課題は岡山シンフォニーホールのメイン事業でありホールの顔ともいべき岡山フィルハーモニック管弦楽団の評価であろう。全国の地方自治体には同種のオーケストラが存在し、構成人員の多さから費用規模が大でありその運営は最重要課題でもある。

◇地方オーケストラとしては九州交響楽団を始めとして京都、広島、群馬、山形、仙台などがあり、戦後間もないころから約30年の間に創設されている。これらのオーケストラは、現時点では創立後40年～50年の歴史を刻んでおり社会的認知度も高いといえる。

◇オーケストラの運営とは、チケット収入では膨大なコストの4割程度しか回収できず、演奏会の成否に確証が持てない厳しい事業である。さらに地方は首都圏と異なりクラシック音楽愛好者が少ないというハンディがある。そのため思うような成果が得られにくい。その中であって前述の地方オーケストラはアウトリーチ等を含めた地道な努力により今日では我らのオーケストラとして立派な市民権を獲得している。

◇岡山フィルハーモニック管弦楽団は結成30年であるがまずはこれを維持して来られた自治体に深く敬意を表したい。これからホールは大改修休館に入る。ただしこの期間はオーケストラの将来にとっての中長期的テーマを考えるまたとない機会ともなろう。聴衆やplayerの世代交代も生じている。これから新たに良い指揮者を得て、ホールリニューアル後の新生岡山フィルハーモニック管弦楽団としてさらなる評価の高まりを望みたい。